

はすだね通信 第54号

みんなで進めよう
茨城農業改革

土浦地域農業改良普及センター

平成27年9月4日発行

レンコンの養分吸収特性と施肥について

レンコンは養分吸収に関する知見が古く、現在主流となっている品種・栽培条件に対応した肥培管理の方法は明らかになっていませんでした。そこで農業総合センター園芸研究所は、現在主流となっているレンコンの品種・栽培条件における養分吸収特性を明らかにしました。今回は現在のレンコン栽培にマッチした効率的な施肥方法について御紹介します。

現在のレンコンの養分吸収特性

レンコンは定植から6月頃までの養分吸収はわずかですが、7月以降は非常に旺盛になります。このような養分吸収特性を考慮することで、無駄のない施肥が実践できます。レンコン収穫物1tあたりの養分吸収量は、窒素9kg、リン酸5kg、カリ10～11kgです。

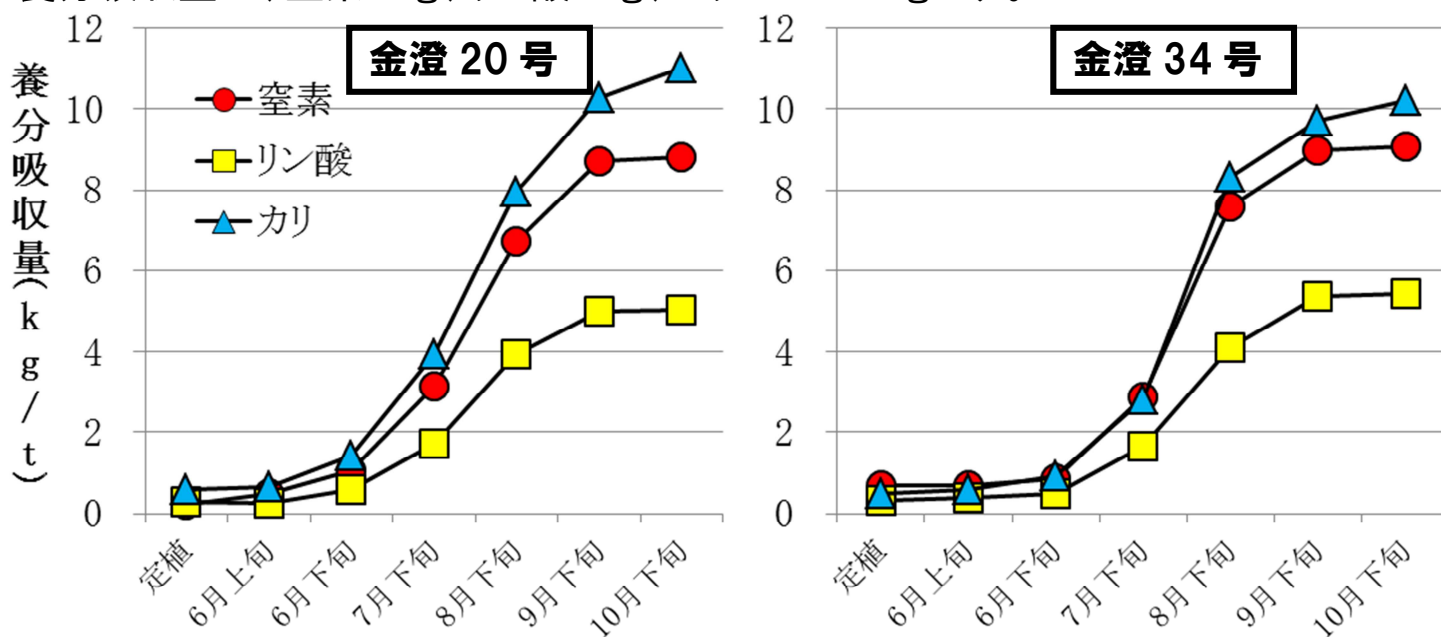


図. レンコン「金澄 20号」、「金澄 34号」の養分吸収特性

ほ場の収量性から施肥量を決定しましょう

レンコンの収量性には、施肥量よりもほ場条件の方が大きく影響します。そのため、各ほ場の収量性(過去の出荷実績等)を考慮することで施肥量を決定できます。レンコンの収量は年次変動が大きいいため、出荷実績は過去2～3年分を平均して求めましょう。

表. 圃場ごとの収量性に対する施肥量の目安

過去2～3年の 10aあたりの出荷重量(kg)	10aあたりの施肥量の目安(kg)		
	窒素	リン酸	カリ
1,600	12	6	16
1,800	15	8	20
2,000	18	10	24
2,200	21	11	28
2,400	24	13	32

上の表は各ほ場の収量性に見合った施肥量の目安です。施肥量を増やしても増収には直結しないことに注意が必要です。

環境にやさしい農業のため、水のかけ流しはやめましょう!!!